

令和3年度

教育委員会の活動の点検・評価報告書

令和4年9月

尾鷲市教育委員会

# 目 次

## 1. はじめに

- 1. 点検・評価制度の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2. 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- 3. 評価の判断基準・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- 4. 尾鷲市教育ビジョン体系図・・・・・・・・・・・・P 3
- 5. 施策体系図・・・・・・・・・・・・・・・・P 4

## II. 事業評価

- 1. 令和3年度主要施策の成果及び  
実績報告書評価一覧表・・・・・・・・P 5
- 2. 令和3年度主要施策の成果及び実績報告書・・・・・・・・P 6～P 2 2

## III. 教育委員会の活動状況

- 1. 活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 3～P 2 4
  - ①尾鷲市教育委員会委員選任状況
  - ②教育委員会会議の開催状況
  - ③審議状況
  - ④審議された議案
  - ⑤教育委員会会議以外の主な活動

## IV. 第三者評価（学識経験者の知見の活用）

- 1. 第三者評価委員・・・・・・・・・・・・・・・・P 2 5
- 2. 第三者評価委員の評価について
  - 川端委員の評価・・・・・・・・P 2 5～P 2 9
  - 湯浅委員の評価・・・・・・・・P 3 0～P 3 4

## V. 教育委員による評価

- 教育委員の評価・・・・・・・・P 3 5～P 4 0

## VI. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・P 4 1

# I はじめに

## 1. 点検・評価制度の趣旨

尾鷲市教育委員会は、目指すべき教育として「尾鷲に誇りを持ち、自ら学び自らを磨き上げ、豊かな心をそなえ他者と協同し、自らのあり方や生き方を身につけ、健やかな体と体力をそなえた人」を基本指針に掲げ、子どもや市民一人ひとりの学びを大切にしたい楽しい学校、生きがいのあるまちづくりを目指しています。

そのため、「おわせ人<sup>ひと</sup>としての人間性を育む教育」として『施策1. 就学前教育の推進』『施策2. 学校教育の推進』『施策3. 青少年の健全育成』、「おわせを誇ることのできる教育」として『施策4. 生涯教育の推進』、「時代の変化に対応するおわせの教育」として『施策5. 学校と地域の共創の推進』という5つの施策の取組を進めていくため学校教育・地域教育・家庭教育・社会教育など様々な角度から教育の充実・連携を図るとともに、伝統文化やスポーツ活動の充実・資質向上に向けて取り組んでいるところです。

そこで、これらの教育行政が十分に執行されているかどうかについて、教育委員自らが点検・評価する必要があるとともに、市民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させていくことが求められていることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、結果を議会に報告するとともに、公表しなければならないとされています。

そこで、教育委員会では、法の趣旨に則り、効率的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和3年度の事務事業について点検・評価を実施し報告書にまとめました。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2. 点検・評価の対象

尾鷲市教育委員会は、平成25年3月に未来に向けて豊かで活力ある尾鷲市を築いていくために、今後10年間の本市における教育の基本的な方向性や重点施策等を示した「尾鷲市教育ビジョン」を策定しました。

尾鷲市教育ビジョンは「共創・共育・共感～次代を創る“おわせ人”づくり～」を基本理念とし、「尾鷲に誇りを持ち愛することができる人」「自ら学び自らを磨き続ける人」「豊かな心をそなえ他者と協同できる人」「自らのあり方・生き方を身につけた人」「健やかな体と体力をそなえた人」のおわせ人<sup>びと</sup>づくりの実現を目指しています。

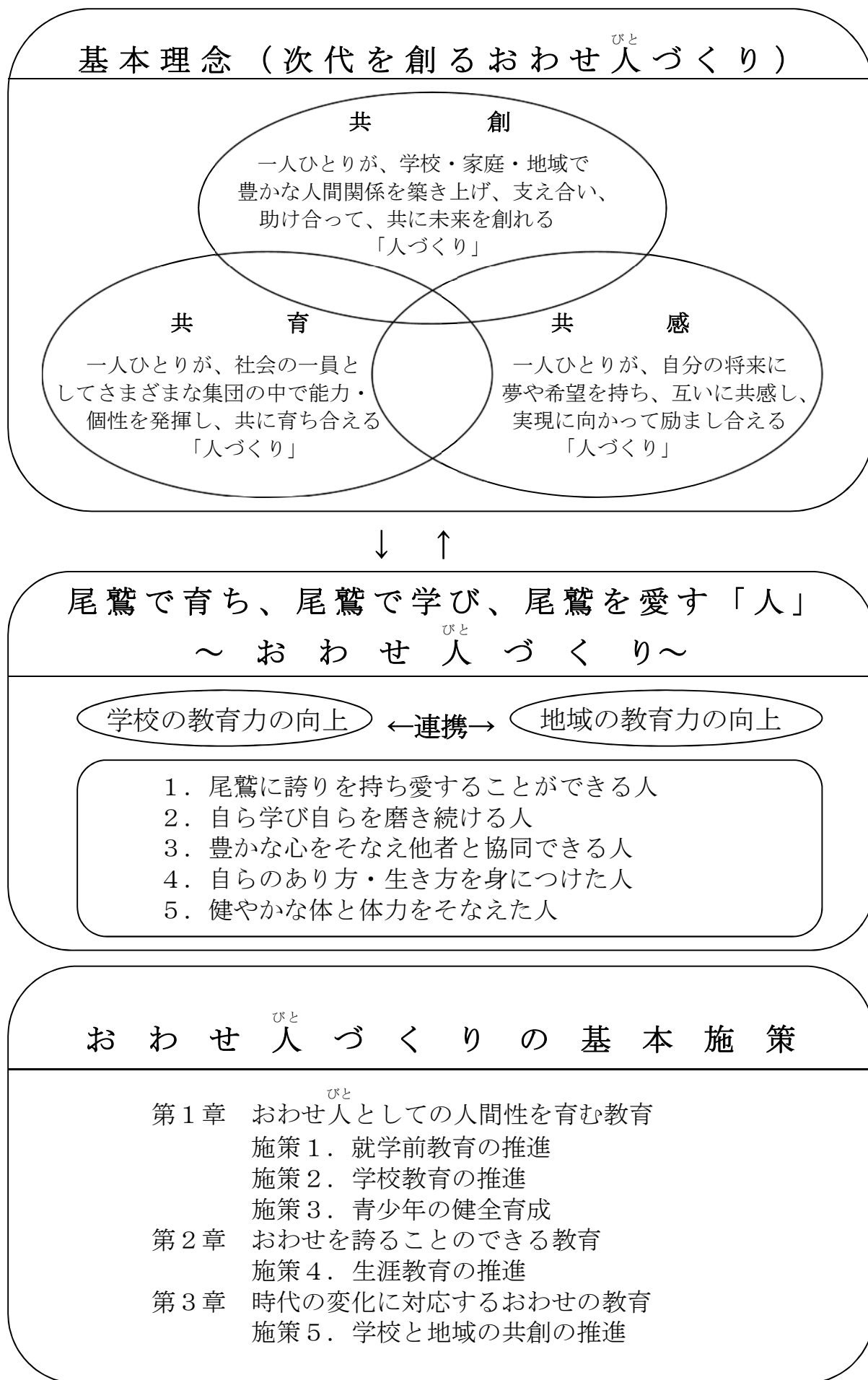
今回の評価にあたっては、尾鷲市教育ビジョンの主な取組の中から17の事業を選定し「主要施策の成果及び実績報告書」として、各事業について、目的・内容・成果の観点から評価を行いました。

## 3. 評価の判断基準

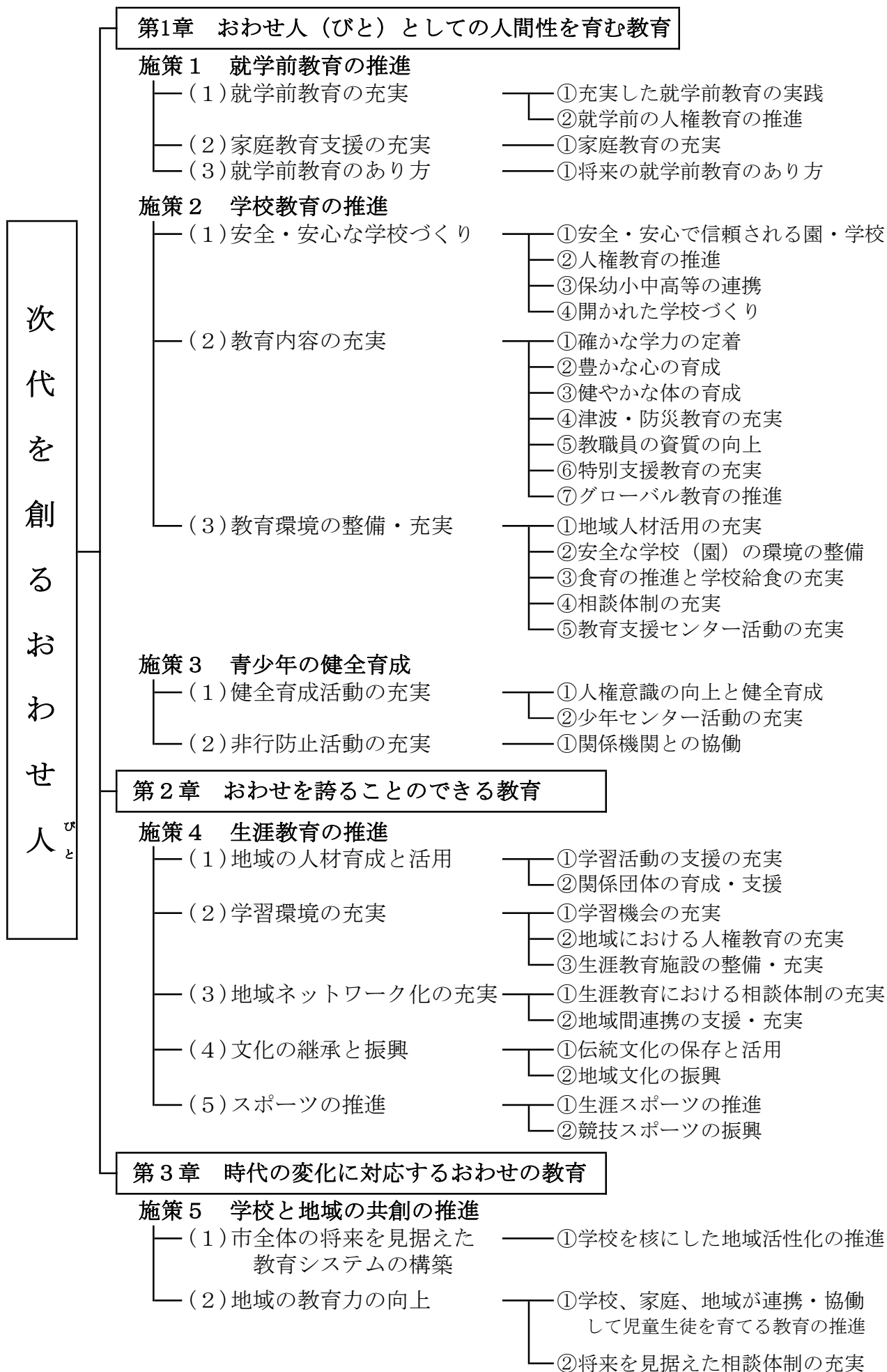
施策を構成する主な事業の実績を、以下の5段階の評価基準に基づき、達成状況、成果から総合評価を行います。

評 価	評 価 基 準
S	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。
B	目標を一定以上達成しているが、更に取り組む余地がある。
C	目標をあまり達成できず、改善の必要がある。
D	目標をほとんど達成できておらず、見直しの必要がある。

#### 4. 尾鷲市教育ビジョン体系図



5. 施策体系図



## II 事業評価

### 1. 令和3年度主要施策の成果及び実績報告書評価一覧表

番号	主要施策名	評価	担当課
1	九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業	A	教育総務課
2	魅力ある学校づくり推進事業	A	教育総務課
3	奨学金貸付事業	B	教育総務課
4	ふるさと教育支援事業	B	教育総務課
5	子どもの学びと育ち育成支援事業	A	教育総務課
6	地域人材を活かした子育てHAPPY事業	A	生涯学習課
7	成人式事業	A	生涯学習課
8	放課後子ども教室推進事業	A	生涯学習課
9	公民館事業	B	生涯学習課
10	天文科学館管理運営事業	A	生涯学習課
11	図書館管理運営事業	A	生涯学習課
12	文化財一般保護事業	B	生涯学習課
13	郷土室保存運営事業	A	生涯学習課
14	少年センター事業	A	生涯学習課
15	文化会館管理事業	B	生涯学習課
16	スポーツ振興事業	B	生涯学習課
17	三重とこわか国体活動費	B	生涯学習課

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 教育総務課

事業名	九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	子どもの健全育成の推進						
	施策	学校教育の充実						
事業開始年度	平成15年度							
対象	九鬼・輪内地区の児童・生徒							
事業の目的	九鬼・輪内地区における小中学生の通学手段の確保、及び地域間交流活動等を行う際の移動手段の確保を目的とする。							
事業の内容	①事業内容 ・スクールバス（3台）の運行管理業務 ・梶賀、曾根、古江、三木里、三木浦、早田、九鬼地区の小中学生の登下校時の運行 ・地域間交流活動等の移動時の運行 ・スクールバス乗車時の避難訓練の実施 ②経費内訳 ・委託料：13,936,560円（自賠責保険料、自動車重量税等含む。）							
事業成果	九鬼・輪内地区の小中学生の安全な通学手段の確保及び遠距離通学の負担が軽減された。また、地域内での伝統行事、校外学習等における移動手段としての利用により、地域住民との交流を通じ、社会生活、郷土愛等を育む教育環境の充実を図ることができた。							
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	教育一般事務局費
事業費（決算額）	13,937 千円							
財源内訳	国庫支出金		千円		その他特定財源		12,000 千円	
	県支出金		千円		一般財源		1,937 千円	
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 12,000千円							



主要施策の成果及び実績報告書

課名： 教育総務課

事業名	魅力ある学校づくり推進事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	子どもの健全育成の推進						
	施策	学校教育の充実						
事業開始年度	令和元年度							
対象	児童・生徒							
事業の目的	<p>学校の特色化、魅力ある学校づくりを進めるため、三重大学との共同研究により、賀田小学校と輪内中学校をモデル校に位置づけ、小中連携した9年間の英語カリキュラムを開発、児童・生徒の英語力、コミュニケーション力の向上により、グローバルな人材を育てる。また、教職員向けの研修会等を通じ、指導のノウハウを市内の小中学校に伝達し、市全体の英語教育の充実を図る。</p>							
事業の内容	<p>①事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重大学との共同研究により、9年間を通じた英語教育を充実させ、独自のカリキュラムを開発する。</li> <li>・授業参観、モデル授業を通して、指導法や教材活用に関する研修を進め、特に英語の指導経験が少ない小学校教諭に対し、重点的に助言指導を行う。</li> <li>・教職員を対象に、教材の活用法を学ぶための講習会、研修会を開催する。</li> <li>・地域の魅力を題材にした教材等を開発する。</li> </ul> <p>②経費内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報償費（講師謝礼）：10,000円</li> <li>・手数料（撮影編集等）：60,000円</li> <li>・委託料（業務委託料）：120,750円</li> </ul>							
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賀田小学校において、小学校1年生から6年生までの「Can-doリスト」を作成した。今まで学んできた英語学習の集大成として、台湾の小学生との交流を行った。子どもたちは、自分たちの地域の魅力を台湾の小学生に英語を使って伝えようと、試行錯誤しながら取り組むことができた。また、自分の英語が相手に通じた、相手の英語をききとることができたなどの経験を通し、より英語に対する意欲、関心を深めることにつながった。三重大学大野准教授を招聘した公開授業研修会を行い、市内の全小中学校の職員が参加し、研修に励むことができたとともに、外国語科の授業づくりについて発信する機会とすることができた。</li> <li>・輪内中学校において、三重大学大野准教授と連携して指導を行い、英語発表会を行った。全校生徒、保護者、小学生などを招き、どの生徒も英語で、合唱や手話を取り入れた歌、スピーチなどを堂々と発表することができた。</li> </ul>							
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	魅力ある学校づくり推進事業
事業費（決算額）	191 千円							
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源	191 千円
	県支出金					千円	一般財源	千円
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 191千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 教育総務課

事業名	奨学金貸付事業								
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち							
	政策	子どもの健全育成の推進							
	施策	子育て支援の推進							
事業開始年度	昭和36年度								
対象	高校生・高等専門学校生・専修学校生・短大生・大学生								
事業の目的	高校・大学等へ進学する生徒・学生で学資の十分でないものに対し、奨学金を貸与し、卒業後社会に貢献させる。								
事業の内容	①事業内容 ・ 勉学意欲があるにもかかわらず、経済的理由により高校・大学等へ進学が困難な者に奨学金を貸与する。 ②経費内訳 ・ 役務費（通信運搬費）： 25,752円 ・ 貸付金（奨学資金貸付金）： 3,960,000円 【新規貸付】： 1,080千円（5名） 大学、短大、専修学校（2名）： 年額300千円×2名＝ 600千円 高等専門学校（2名）： 年額180千円×2名＝ 360千円 高等学校（1名）： 年額120千円×1名＝ 120千円 【継続貸付者】： 2,880千円（11名） 大学、短大、専修学校（8名）： 年額300千円×8名＝ 2,400千円 高等専門学校（2名）： 年額180千円×2名＝ 360千円 高等学校（1名）： 年額120千円×1名＝ 120千円								
事業成果	・ 高校、大学等へ進学する生徒・学生に対して奨学金を貸与することにより、保護者の経済的負担を軽減し、適切な修学環境の整備を図ることで、次代の社会を担う人材育成のための機会を保障することができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、年度内に追加募集を実施したところ、1名の追加採用者があった。								
予算科目	款	9	項	1	目	3	細目名	奨学資金貸付事業	
事業費（決算額）	3,986 千円								
財源内訳	国庫支出金						千円	その他特定財源	3,960 千円
	県支出金						千円	一般財源	26 千円
その他	その他特定財源：奨学資金貸付金返還金 3,960千円								

## 主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	ふるさと教育支援事業							
施策体系	基本目標		みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち					
	政策		子どもの健全育成の推進					
	施策		学校教育の充実					
事業開始年度	平成26年度							
対象	児童・生徒							
事業の目的	子どもたちが、ふるさと尾鷲に愛着を持ち続けるため、地域の人々の考え方や生き方から学んだり、自然や景観、歴史、伝統文化の体験など、郷土愛を育む「ふるさと教育」を充実させる。							
事業の内容	<p>①事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾鷲の自然や景観、歴史、伝統文化などに触れる体験学習や地域教材を活用した学びを充実させる。</li> <li>・市民と共創し、地域の方々や様々な分野の達人を活用したふるさと教育を充実させる。</li> <li>・ふるさと産業体験活動(ふるさとキャリア教育)を市民協力のもと実施する。</li> <li>・尾鷲以外の地域の文化や産業について見識を広め、将来の尾鷲のあるべき姿について考える。</li> </ul> <p>②経費内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 需用費(消耗品費) : 155,483円</li> <li style="padding-left: 20px;">使用料及び賃借料(借上料) : 263,600円</li> <li>・中学校 需用費(消耗品費) : 19,332円</li> <li style="padding-left: 20px;">役務費(通信運搬費) : 11,220円</li> </ul>							
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍によりできないこともあったが、小学校では鈴鹿サーキットでの体験プログラムに参加し、本田技研での自動車生産などについて、学ぶことができた。自然体験学習や伝統文化体験学習などを通して、地域の自然、歴史、食文化について理解を深めたり、地域の先人の知恵等を学んだりするなど地域を大切にする気持ちを育むことができた。また、地域の方々と交流を深める機会を持つことができた。</li> <li>・中学校のふるさと産業体験活動については、コロナ禍で職場体験ができなかった。</li> </ul>							
予算科目	款	9	項	2 3	目	2 2	細目名	ふるさと教育支援事業
事業費(決算額)	小学校分		419	千円				
	中学校分		31	千円				
財源内訳	国庫支出金		千円	その他特定財源		450	千円	
	県支出金		千円	一般財源		千円		
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 450千円							

## 主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	子どもの学びと育ち育成支援事業								
施策体系	基本目標		みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策		子どもの健全育成の推進						
	施策		学校教育の充実						
事業開始年度	平成26年度								
対象	園児・児童・生徒・教職員								
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと尾鷲を担い、創り上げていく「おわせ人」を育成していくため、教職員の指導力向上と授業改善を目指した絶え間ない研修、また、豊かな未来を切り開くための環境づくりと学校教育の充実をすすめる。</li> <li>・文化的・芸術的な催し物の鑑賞を通して、園児の豊かな感性や想像力を育む。</li> </ul>								
事業の内容	<p>①事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「すべては、子どもたちのために」という思いを共有・協働して、組織的に支え合う取組を推進する。</li> <li>・各教科において、話す・聞く・伝え合う・学び合うことを大切に授業づくりを行う。</li> <li>・基礎学力の向上・定着・自己学習力の育成を目指した学習指導を推進する。</li> <li>・児童・生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを推進するため、学級満足度調査（QU調査）を活用し、「自立する力」「共に生きる力」を育成する取り組みを推進する。</li> <li>・幼稚園において、交流保育を行い、様々な友達とふれあい人間関係を広げる。また本物の芸術（人形劇）に触れる機会をつくり、豊かな感性と想像力を育む。</li> </ul> <p>②経費内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 報償費(報償費) : 9,000円、需用費(消耗品費) : 313,260円                        役務費(保険料) : 5,600円</li> <li>・中学校 需用費(消耗品費) : 367,650円</li> <li>・幼稚園 需用費(消耗品費) : 47,540円、役務費(通信運搬費) : 8,580円                        委託料(業務委託料) : 94,900円</li> </ul>								
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校において、QU調査を活用し、学級のデータの分析を行い、状況、課題を確認、課題解決に向けての取組を進めるなど、PDCAサイクルを意識した学級経営に役立てることができた。また、一人ひとりの子どもの思いを把握し、個別に悩みを聞くなどの対応や、いじめ等の諸問題に対しての未然防止の取組などにつなげることができた。</li> <li>・プロの人形劇を観劇し、本物の文化・芸術に触れる貴重な機会を持つことができた。子どもたちの心に強く残るものとなり、印象的な場面のセリフや劇中の歌を口ずさんでいた。また、上演後に人形に触れさせてもらい、劇団の方々と接する機会を持つことができたこともよい体験となった。</li> </ul>								
予算科目	款	9	項	2 3 4	目	2 1	細目名	子どもの学びと育ち育成支援事業	
事業費（決算額）			小学校分	328	中学校分	368	幼稚園分	151	千円
財源内訳	国庫支出金		千円		その他特定財源		千円		
	県支出金		千円		一般財源		847	千円	
その他									

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	地域人材を活かした子育てHAPPY事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	令和2年度							
対象	市民							
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「こころ豊かにしごとと子育てができる移住促進事業」の一環として、本市の豊かな自然と文化に恵まれた環境の中で、地域の子育て支援団体等の地域人材を活かし、子育て世帯に対するイベントを実施し参加してもらうことで、子育てのしやすさを感じられる地域づくりを推進する。							
事業の内容	<p>地域における子ども支援・子育て支援に関わる団体や地元事業者等との連携のもと、本市ならではの特色を活かした地域ぐるみの子育て支援として、子育て世帯が親子で楽しめるイベント「子育てHAPPYDAY」と題した、本読み子育ての取り組み（青空図書館）と、お仕事体験（HAPPYワーク）を開催した。</p> <p>①「青空図書館」 日時：令和3年10月24日（日）9時30分～ 参加者：429名</p> <p>②「HAPPYワーク inにゃんにゃん王国」 日時：令和3年12月12日（日）9時00分～ 参加者：204名</p> <p>※「夏休みホラーナイト」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止</p>							
事業成果	<p>「子育てHAPPYDAY」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行い、地域の団体や事業者、関係各課などとの連携のもと開催した。</p> <p>子育て中の当事者だけではなく、地域一体となり、様々な立場の方が関わることで、「子育てを楽しみ、みんなで見守る」地域の意識づくりを進めることができた。</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	社会教育一般事務費
事業費（決算額）	72 千円							
財源内訳	国庫支出金	36	千円	その他特定財源			千円	
	県支出金		千円	一般財源			36 千円	
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 36千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	成人式事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	昭和33年度							
対象	20歳の青年							
事業の目的	成人式に参加することにより、大人になったことを自覚し、社会の一員として再認識してもらう。							
事業の内容	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度から延期となっていた式典を含め、成人式を2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：第63回尾鷲市成人式 令和3年11月20日（土） 13時30分～ 第64回尾鷲市成人式 令和4年 1月 9日（日） 10時30分～</li> <li>・会場：尾鷲市民文化会館</li> <li>・内容：①オープニングビデオ、②開式のことば、③国歌斉唱、④激励のことば、⑤来賓紹介、⑥祝電披露、⑦記念品贈呈、⑧二十歳の想い、⑨恩師からのメッセージ、⑩祝辞、⑪閉式のことば （日程・内容については、新成人による実行委員会で決定）</li> </ul>							
事業成果	<p>新成人によるボランティア実行委員会を結成し、式典の準備・運営をしており、新成人として社会に関わっていく第一歩としての認識を新たに する機会づくりとしての効果や、式典そのものに対する意識を高めながら式 典進行をすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第63回尾鷲市成人式 新成人168人【出席者：102人（男性40人、女性62人）、出席率60.7%】</li> <li>・第64回尾鷲市成人式 新成人143人【出席者：117人（男性68人、女性49人）、出席率81.8%】</li> </ul>							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	成人式事業
事業費（決算額）	958 千円							
財源内訳	国庫支出金	27	千円	その他特定財源				千円
	県支出金		千円	一般財源	931			千円
その他	国庫支出金：新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 27千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	放課後子ども教室推進事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	平成19年度							
対象	市内の小学生							
事業の目的	放課後等における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを進める。地域のすばらしい自然や文化にふれながら、生活、社会、自然体験などさまざまな講座を実施することにより、学校外での学習を深める機会を創出し、子どもたちが自ら考える力や、豊かな心を育てるとともに、地域で子どもを見守り育む体制を支援する。							
事業の内容	<p>小学生を対象に、土曜日や夏休みなどに多様な体験講座を実施。企画運営に当たるコーディネーターを配置し、地域の方を講師にした地元を知ることにつながるような企画などを取り入れている。</p> <p>令和3年度は、『夏休みだよ！ラジオ体操に集合』や『九木神社樹叢（じゅそう）へ探検に行こう！』などを実施した。</p> <p>○尾鷲校：浴衣de茶道体験、ちびっこ夏祭り、子ども読書会など 19講座29回（うち、賀田小での平日講座は1講座1回、尾鷲小での平日講座は1講座1回）</p> <p>○矢浜校：卓球教室、間伐体験教室、木工教室など 6講座13回</p> <p>〈活動推進のための体制整備〉</p> <p>①運営委員会並びに実行委員会を設置、ボランティアの協力 ②家庭・学校・地域の連携強化</p>							
事業成果	<p>多様な体験講座を通じ、子どもたちが異なる学年・学校の児童とつながりを持つなかで、互いに思いやる気持ちを育み、また、地域の方々と連携して事業を進めることで世代間交流の場ともなっている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、3学期の講座は中止となったが、毎回多数の応募があった。感染予防対策を徹底した中で講座を実施し、家庭だけでなく地域で子どもを育成しながら、放課後や休日の過ごし方の充実と安全・安心な居場所づくりを進めることができた。</p> <p>・講座開催回数 25講座42回（尾鷲校：29回、矢浜校：13回） ・講座参加人数 620人（尾鷲校：548人、矢浜校：72人）</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	放課後子ども教室推進事業
事業費（決算額）	999 千円							
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源	千円
	県支出金	666					千円	一般財源 333 千円
その他	県支出金：放課後子ども教室推進事業補助金 666千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	公民館事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	昭和55年4月（中央公民館竣工）							
対象	市民							
事業の目的	実際の生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するための各種事業を推進する。							
事業の内容	市民に学習機会を提供し、教養と健康づくりの推進など、生涯学習の拠点としての取り組みとして、中央公民館での講座等を開催するとともに、安全・安心な施設利用を目的に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組んだ。							
事業成果	定期講座では7講座・3サークルに延べ1,066人の受講があった。新型コロナウイルス感染症の影響で、中央公民館文化祭が中止となったが、ロビー展を開催することにより、制作された作品を展示する機会を創出した。 定期講座以外では、家庭教育支援講座において「蜜ろうクリームをつくろう」を開催し、家庭教育に関する学習機会や交流機会を提供した。また、1年振りに「クリスマスコンサート」を開催し、市民が文化・芸術にふれる機会を創出した。							
予算科目	款	9	項	5	目	2	細目名	公民館活動経費
事業費（決算額）	213 千円							
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源	213 千円
	県支出金					千円	一般財源	千円
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 213千円							



主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	天文科学館管理運営事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	平成2年度							
対象	市民							
事業の目的	<p>未来を担う青少年はもとより、広く市民に愛され、親しまれ、宇宙の美しさと神秘性を感じながら「夢と希望」を育み、生涯学習への関心を促す「場」と「機会」を提供していくことを基本に、天文及びその他の自然科学に関する知識の普及並びに文化の向上を図るための管理運営を行う。</p>							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観望会、観察会の開催 夜間観望会（金・土）、太陽の観望会、太陽黒点の観察会 特別観望会、特別夜間観望会、7惑星観望会など</li> <li>・ その他行事 各種体験教室、「七夕まつり」など</li> </ul>							
事業成果	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した中で、夜間観望会や特別観望会（月食等）を実施し、利用増大に努めた。 また、各種講座・体験教室の開催、小学校からの社会見学、遠足等の受け入れを積極的に行うとともに、市ホームページやSNSを利用した情報発信に努めた。</p> <p>（令和3年度年間総利用者 1,609名） 開館日数（148日） 夜間利用者215名 昼間利用者1,394名</p> <p>○各校来館・出前学習会授業 370名 ○夜間観望会、特別観望会 213名 ○講座・体験教室等 20名</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	3	細目名	天文科学館管理運営経費
事業費（決算額）	1,434 千円							
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源	5 千円
	県支出金					千円	一般財源	1,429 千円
その他	その他特定財源：天文科学館入館料及び使用料 5千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	図書館管理運営事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	平成13年度（中央公民館図書室から市立図書館へ名称変更）							
対象	市民							
事業の目的	<p>「暮らしの中の図書館」として以下のことを目的とする。</p> <p>①市民が知性と教養を育み潤いのある豊かな生活をするために役立つこと</p> <p>②明日の社会を担う子どもたちの健やかな生活の糧として役立つこと</p> <p>③市民の暮らしと仕事に必要な知識と情報が得られること</p> <p>④市民の生涯学習の場となること</p>							
事業の内容	<p>市民が必要とする知識や情報が得られるよう、資料の収集・閲覧・提供・保存を行う。窓口では、図書の貸出・返却を中心に予約やレファレンスサービス・コピーサービス等を行う。インターネット予約は24時間受付、市民からのリクエスト本は、購入や県内外図書館等の相互貸借を活用する。「図書館だより」「新着図書案内」等の発行や特集コーナーの展示を行う。</p> <p>妊娠期からの読み聞かせの啓発や幼児・児童向けの年齢に応じたおはなし会等の開催、保育園等への定期的な団体貸出、地区コミュニティーセンター等と連携して、地域への団体貸出を行う。</p>							
事業成果	<p>新着図書案内等の定期発行、館内に毎月特集コーナーを設け、SNSでの情報発信を行い、読書普及を図った。貸出冊数57,611冊、貸出人数12,551人。自宅で図書検索ができるインターネット予約の利用件数1,349件。</p> <p>毎月1回幼稚園・保育園への絵本の団体貸出、おはなし会40回、出張おはなし会5回、プレパパママ教室1回を開催し、延べ575人の参加があり、乳幼児期からの読み聞かせなど読書に親しむ機会を提供することができた。乳幼児をもつ保護者向けチラシを作成・配布し、家庭での読書の取り組みを啓発した。</p> <p>また、小中学生への読書推進を図るため、子ども読書会6回、中学校へのブックトーク1回、小学校へのブックトーク2回、夏休み手作り絵本教室1回の開催及び図書館見学3回の受け入れで、延べ250人が参加した。</p> <p>地区コミュニティーセンターと連携し、地区コミュニティーセンターへの定期的な団体貸出を行い、図書館利用が不便な地域の住民に対しての貸出サービスを充実した。</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	4	細目名	図書館管理運営経費
事業費（決算額）	5,166 千円							
財源内訳	国庫支出金		千円		その他特定財源		2,608 千円	
	県支出金		千円		一般財源		2,558 千円	
その他	<p>その他特定財源：図書館コピーサービス料 11千円</p> <p>ふるさと応援基金繰入金 2,597千円</p>							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	文化財一般保護事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	平成16年度							
対象	市民・指定文化財等							
事業の目的	<p>市内に所在する国・県の各種文化財および市にとって重要なものである市指定文化財等の保護・管理に務めるとともに、その活用を図り、貴重な地域資源として次世代に継承する。</p> <p>世界遺産登録された熊野古道の保全や維持管理に努め、次世代に継承するとともに、来訪者の安全対策並びに熊野古道と周辺林野における経済活動との調整を行う。</p>							
事業の内容	<p>文化財調査委員とともに市内に所在する文化財等の調査やパトロールを実施するとともに、保護管理および活用等を行う。</p> <p>須賀利大池については、須賀利大池及び小池保存管理委員会の意見を踏まえ、その保存管理や活用、周辺に自生する希少植物ハマナツメ等を守る取り組みを実施する。</p> <p>世界遺産である熊野古道については、参詣道や説明板等の修繕、文化的景観の保全、来訪者の安全対策、熊野参詣道伊勢路環境保全指導員によるパトロール、森林施業との安全調整等の経費補填を実施する。</p> <p>文化財調査委員5名、須賀利大池及び小池保存管理委員会委員10名 文化的景観保全審議会委員11名、熊野参詣道伊勢路環境保全指導員4名</p>							
事業成果	<p>文化財調査委員や三重県、専門家と連携し、文化財パトロールを行うなど市内文化財の保全を行うとともに、文化財の周知・活用等として郷土室の企画展において、収蔵資料の展示を行った。</p> <p>熊野古道については、環境保全指導員による定期点検をはじめ、環境保全指導員や熊野古道保存会・語り部などと連携し、古道等の補修や老朽化した木製の100m道標の更新、参詣者と森林施業との安全調整に係る補填など、世界遺産である熊野古道を管理・保全し、来訪者等の通行の安全性や利便性の向上を図った。</p> <p>須賀利大池及び小池については、須賀利大池及び小池の現地調査を実施し、大池でのハマナツメの生育状況調査、獣害防止柵の確認及び補修等を行った。</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	5	細目名	一般保護事業
事業費（決算額）	1,325 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円	その他特定財源	892	千円	
	県支出金			千円	一般財源	433	千円	
その他	<p>その他特定財源：熊野古道森林施業対策基金繰入金 404千円 熊野古道保全整備事業補助金 488千円</p>							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	郷土室保存運営事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	平成7年度							
対象	市民・尾鷲組大庄屋文書（県指定）・須賀利浦方文書（県指定）・大曾根浦方文書（市指定）・矢浜村方文書（市指定）・堀北浦庄屋文書（『尾鷲組大庄屋記録』中）・中村山土井家文庫（市指定）・民具・標本							
事業の目的	市域の人文・自然両分野にわたる諸資料を郷土の文化遺産として調査・収集・保存するとともに、公開・展示するなどして一般の活用を図り、郷土の文化・文化財を守り伝えることの大切さを普及することに努める。							
事業の内容	<p>県指定文化財である尾鷲組大庄屋文書及び須賀利浦方文書、市指定文化財である矢浜村方文書や中村山土井家文庫等の文化財をはじめとした収蔵資料を適切に維持保存するため、専用薬剤による燻蒸処理等を行う。</p> <p>また、これら市域の諸資料の調査や、その価値や大切さ、郷土との関わりなどを一般に分りやすく伝えるための企画展示等を数か月ごとに実施するなど、地域の文化・文化財を広く紹介する。</p>							
事業成果	<p>収蔵資料や新規寄贈資料を紹介する企画展示を行うことで、資料の活用を図り、郷土文化の伝承を行った。特に、本市所蔵古文書史料を対象として、紀州藩が幕末に編纂した地誌『紀伊続風土記』の編纂に関する史料調査を行った結果、藩からの調査報告書の提出依頼だけでなく、各浦村が藩へ提出した報告書など、郷土史研究にも活用可能な学術的成果も得られた。</p> <p>これら成果を基に企画展示を実施し、かつ市民からの要望により、郷土資料や文化財をテーマとした勉強会でも講演を行い、調査成果を広く紹介した。</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	6	細目名	保存運営事業
事業費（決算額）	1,374 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円	その他特定財源	1,150	千円	
	県支出金			千円	一般財源	224	千円	
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 1,150千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	少年センター事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	子どもの健全育成の推進						
	施策	子育て支援の推進						
事業開始年度	昭和58年度							
対象	市民・青少年							
事業の目的	次代を担う青少年が、心身ともに健やかに成長し、豊かな人間性を身につけられるよう、関係機関・団体・地域社会が連携し、教育的配慮をもって補導活動を推進することによって、青少年の非行防止を図るとともに、その健全育成に努める。							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補導活動の積極的推進（街頭補導、不審者等情報の収集と対応ほか）</li> <li>・指導活動の推進（青少年の問題行動への指導や少年らへの支援ほか）</li> <li>・環境浄化活動の推進（不良な環境の早期発見と排除ほか）</li> <li>・相談活動の充実（学校や相談機関との緊密な連携、個別対応ほか）</li> <li>・啓発活動の推進（関係機関や団体と連携した啓発活動ほか）</li> <li>・青少年健全育成事業の推進（町民会議との連携活動、いじめ防止ほか）</li> </ul>							
事業成果	<p>「地域の子どもは、地域で育てる」という考えを基本に、自主指導として自転車による巡回や登下校時の見守り、青パト巡回をはじめ、尾鷲市青少年育成市民会議や各町民会議と連携した取り組みを行った。</p> <p>関係機関・団体からなる非行防止ネットワーク「オツワッセふれ愛隊」や少年指導員の会等との連携による非行防止活動などは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。</p>							
予算科目	款	9	項	5	目	7	細目名	少年センター一般事務費
事業費（決算額）	471 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円	その他特定財源	471	千円	
	県支出金			千円	一般財源		千円	
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 471千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	文化会館管理事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯教育の推進						
事業開始年度	平成5年度							
対象	市民							
事業の目的	市民の文化、教育、福祉、地域の産業振興等の増進に資するため、運営を行う。							
事業の内容	尾鷲市民文化会館の管理運営を指定管理者へ委託及び施設の適切な維持管理のため修繕を行う。							
事業成果	施設の適切な維持管理のため、空調設備、及び消防設備修繕等を実施した。(計3,087千円) また、指定管理者である「公益財団法人尾鷲文化振興会」において、講演会、パフォーマンスショー等の自主事業、及び共催事業として教育文化事業を実施するとともに、コロナ禍のため令和2年度より活動自粛中の「せぎやま倶楽部」の過去の発表会の映像を上映する等、各サークルの活動再開に向けたサポートを行った。(指定管理料47,458千円)							
予算科目	款	9	項	5	目	8	細目名	文化会館管理運営費
事業費(決算額)	50,805 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円	その他特定財源		5,992 千円
	県支出金				千円	一般財源		44,813 千円
その他	その他特定財源：三重県市町村振興協会市町村交付金 5,992千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	スポーツ振興事業							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯スポーツの推進						
事業開始年度	平成5年度							
対象	市民							
事業の目的	<p>子どもから高齢者まで、初心者から上級者まで、地域の誰もが年齢、性別の隔たりなく、興味とレベルに応じたスポーツ活動ができる機会を拡充し、いつでも・どこでも・誰とでもスポーツのできる場を提供する。 また、スポーツ活動を活性化させるため、スポーツ少年団を通し、育成を図るとともに、スポーツ協会加盟団体等の活動を支援する。</p>							
事業の内容	<p>1. スポーツ教室等の開催 2. スポーツ活動への支援（少年・成年スポーツ活動、スポーツフェスティバル、他市町公営プールの利用支援など）</p>							
事業成果	<p>尾鷲市スポーツ協会・尾鷲市スポーツ少年団と連携し、各スポーツ大会の開催、三重県市町対抗駅伝大会に向けての練習（新型コロナウイルス感染症の影響で大会は中止）等、コロナ禍において実施された事業に対し支援を行った。 そのほか、尾鷲市他市町公営プール利用補助金交付（補助金額3,092千円）により、市民のスポーツ振興等を図った。</p>							
予算科目	款	9	項	6	目	1	細目名	スポーツ振興事業
事業費（決算額）	4,500 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円	その他特定財源	492	千円	
	県支出金			千円	一般財源	4,008	千円	
その他	その他特定財源：学校開放使用料 492千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課名： 生涯学習課

事業名	三重とこわか国体活動費							
施策体系	基本目標	みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち						
	政策	豊かな心を育む人づくりの推進						
	施策	生涯スポーツの推進						
事業開始年度	平成30年度							
対象	市民							
事業の目的	「三重とこわか国体」に向け、本市で開催される正式競技及びデモンストレーション競技の普及・振興を行い、国体の円滑な開催のため、国体実行委員会の運営を行う。							
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国体実行委員会の開催等</li> <li>2. 正式競技に係る取り組み (本大会及びリハーサル大会開催準備等)</li> <li>3. デモンストレーションスポーツの普及・振興 (ユニカール・クップ体験会、審判講習会等)</li> </ol>							
事業成果	<p>オープンウォータースイミングのリハーサル大会を無観客で開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、国体が中止となった。</p> <p>デモンストレーションスポーツであるウォーキング・クップ・ユニカールについては、プログラムの作成等の大会開催に向けた準備を行い、また、審判講習会の実施等により、普及・振興を図ったものの、全て中止となった。</p>							
予算科目	款	9	項	6	目	4	細目名	三重とこわか国体活動費
事業費(決算額)	13,742 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円		その他特定財源		千円
	県支出金			8,870		一般財源		4,872 千円
その他	<p>県支出金：三重とこわか国体競技別リハーサル大会運営費補助金 2,735千円</p> <p>三重とこわか国体会場地市町運営交付金 6,135千円</p>							



### Ⅲ 教育委員会の活動状況

#### 1. 活動状況

##### ① 尾鷲市教育委員会委員選任状況

(令和4年3月31日現在)

職名	氏名	任期
教育長	出口隆久	自：令和元年10月11日 至：令和4年10月10日
教育長 職務代理者	森下龍美	自：平成30年10月1日 至：令和4年9月30日
委員	北裏佳代	自：令和元年10月1日 至：令和5年9月30日
委員	大門利江子	自：令和2年12月8日 至：令和6年12月7日
委員	田中利保	自：令和3年10月9日 至：令和7年10月8日

\*教育長任期：3年 教育委員任期：4年

##### ② 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、毎月1回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催し、教育委員会の議決事項等について審議を行っています。

令和3年度は定例会12回が開催されました。

##### ③ 審議状況

24件 ※報告事項15件、その他事項15件

##### ④ 審議された議案

内容	件数(件)	内容	件数(件)
条令関係	2	人事関係	4
規則関係	8	施策、計画関係	4
要綱関係	1	予算関係	5

⑤ 教育委員会会議以外の主な活動

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、学校訪問、各種行事、各種会議への参加、他市町教育委員との合同研修会など、様々な活動を行っています。

令和3年6月14日、6月17日、6月21日の3日間、教育現場等の現状を直接見聞する機会として、授業や集団での遊びの様子、特別支援教室などの施設を見学し、校長（園長）、教頭と意見交換を行いました。訪問は毎年実施しており、小学校5校、中学校2校、幼稚園1園を訪問しました。

各学校・園での取組について把握するとともに、実際に子どもたちが小中学校や幼稚園で、いきいきと活動する様子を見学することで、教育委員会による効果的な支援を実施することができると考えています。

また、令和4年1月18日には、賀田小学校において、台湾の興達國民小学校との交流会を見学しました。これは、三重大学と連携して3年間英語教育に取り組んでいく事業の集大成として、オンラインでの交流会が行われたものになります。令和3年度で事業は終了となりましたが、今後はこの事業成果を基に、本市全体の英語教育の充実が図られるのではないかと考えています。

その他、令和3年11月2日には、県教育委員会、市町等教育委員会、公立小中学校等の教育関係者が、共通の課題意識のもとに、子どもたちの目線に立った教育実践と学校づくりを進めていくため、三重県教育委員会、三重県市町教育委員会連絡協議会主催の「三重の教育談義」に参加しました。

## IV 第三者評価（学識経験者の知見の活用）

### 1. 第三者評価委員

氏名	備考
川端 裕也	元紀北中学校教頭
湯浅 祥司	尾鷲市社会教育委員長

### 2. 第三者評価結果について

#### 【川端委員の評価】

#### (1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

九鬼・輪内地区の児童・生徒の安心で安全な通学手段として十分な成果を上げていると思います。また、地域学習や地域住民との交流等にも活用され、郷土を大切に作る心を育む教育にも生かされていると思います。

登下校時の地震発生など、災害対応についての訓練や感染症対策について学校等と連携し、更に事業を充実させていってください。

#### (2) 魅力ある学校づくり推進事業

輪内地区の小学校、中学校において、9年間を通した英語カリキュラムが本格的に動き出した年ではないかと思います。賀田小学校での各学年の「Can-do リスト」づくりはそのスタートだと思います。また、輪内中学校でも英語発表会を実施するなど、成果も上がっています。賀田小学校では、講師を招聘した公開研修会を開催するなど、研修の機会を大きく広げてくれています。「Can-do リスト」は作成することが目標ではなく、作成したリストを活用することが大切だと思いますので、今後ぜひこのリストを活用し、子どもたちに確かな力を身につけてあげてほしいと思います。そのため、こうした実践を後押しし、広めていただきたいと思います。

#### (3) 奨学金貸付事業

コロナ禍で平均所得の低下がみられる中で、高校・大学等へ進学する子どもを持つ保護者にとって、経済的な負担を軽くすることのできる有効な事業かと思います。新規の貸付は、前年に比べ人数で3名増となり、継続も含めた貸付額は前年比2割増となりました。

今後も地元中学校・高等学校及び保護者への紹介や、説明の機会を更に増やすなど、事業の改善と充実を図っていってください。

#### (4) ふるさと教育支援事業

児童・生徒たちが、郷土尾鷲の歴史、文化、自然について学び、尾鷲に対する郷土愛を育むために有効な事業だと思います。また、学習の際、地元で活躍する先輩たちから学ぶことも多くあり、世代間の交流というメリットもあるかと思えます。

中学校では新型コロナウイルス感染症の影響で産業体験学習が実施できなかったということでしたが、中学生が地元の産業を知り、体験し、地元で汗を流して働く体験をすることは、これからの尾鷲を担う人材育成につながると思えますので、ぜひ事業を継続していただきたいと思えます。

#### (5) 子どもの学びと育ち育成支援事業

「Q-U調査」は学級内の児童・生徒の実態を客観的に調査・分析し、データを提供してくれます。各校ではこのデータを活用し、学級経営や問題行動等の未然防止に役立てていると思えますので、今後もぜひ継続していただきたい事業だと思います。また、そのデータを担任一人で分析するだけでなく、学年部や学校全体、あるいは外部有識者等と共有分析することで、より深い分析ができると思えますので、そういった機会が設定できるように調整し、取り組んでいただければと思えます。

幼稚園において行われている交流保育については、多くの人と触れ合うよい機会を提供できていると思えます。また、質の高い文化・芸術に触れることのできる芸術鑑賞の事業も継続していただきたいと思えます。

#### (6) 地域人材を活かした子育てHAPPY事業

夏休みホラーナイトは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、秋に実施した2つの事業は600名を超える参加者があり、子育て支援のニーズがあることを感じました。

関係各課や関係団体との連絡・調整など、難しい面も多々あるかと思えますが、それをマイナスと捉えず、それぞれの課や団体の持つ良さを生かしていけるとプラスに捉え、今後とも事業を継続して行ってください。

#### (7) 成人式事業

令和3年度は前年度分も含めて2回の成人式実施となりました。新成人による実行委員会が準備・運営に関わることで、事業に対する意識も高まっているのではないかと思えます。出席者の多くは懐かしい友人との再会を楽しみにしていると思えます。また、進学や就職でしばらく尾鷲を離れている人たちに、郷土の魅力をアピールできるよい機会でもあるので、成人式の構成が、尾鷲を離れた人が再び戻って来たくするような魅力を発信できるものになればよいのではないかと思えます。

新型コロナウイルス感染拡大が完全に収束しない中、今後も開催の可否については難しい判断になるかと思えます。なにとぞ十分検討され、開催の際には、感染防止対策を万全にされることをお願いいたします。

#### (8) 放課後子ども教室推進事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3学期の講座は中止となりましたが、24講座41回620人の参加で実施できました。放課後の子どもたちの安全な居場所づくりということだけでなく、地域の自然・文化に触れ、子どもたちが自ら考え、学ぶ場にもなっていると思えます。また、コーディネーターを中心に、運営委員、多くのボランティアなどの協力を得て行われていると聞いております。こうした地域の人材を活用し、地域との連携を強化することが、地域で子どもを見守り、地域で子どもを育てていく基盤になると思えます。

#### (9) 公民館事業

令和3年度は定期の講座・サークル活動で1,066人の受講がありました。前年とほぼ同数の受講者数ですが、その数はコロナ禍前のおよそ半数となっています。そのような中、感染防止対策を講じながら、クリスマスコンサートが開催され、文化・芸術に触れる機会を提供していただきました。

講座等の内容については、毎年検討していただいていることかと思えますが、コロナ禍だからこそ市民のニーズを的確に把握していただき、タイムリーなものに期待したいと思えます。新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たない中、難しいこととは思いますが、感染状況を的確に把握して開催の可否を判断し、開催の際には十分な感染対策を取りつつ対応していただきたいと思えます。

#### (10) 天文科学館管理運営事業

市ホームページやSNSを利用した情報の発信に努められ、また、感染症防止対策を講じた上での夜間観望会や月食等の特別観望会を開催するなど、利用者の増大に向けて、工夫・努力されていると思えます。総利用者数では前年を下回りましたが、各種講座や体験教室のほか、社会見学や遠足等の受け入れなどにより、昼間利用者の数はわずかに上回っています。

既に実施されておりますが、学校への出前授業などを今後も継続していただき、子どもたちに宇宙への、自然科学への興味・関心を掻き立てていただきたいと思えます。

#### (1 1) 図書館管理運営事業

新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、自宅に居ながら図書検索ができるインターネット予約の数がわずかながら増えています。新着図書案内の発行やSNSを用いた情報発信に加え、特集コーナーの設置など積極的な情報発信を行っていただいていると思います。周辺地域などの図書館利用に不便な地区の住民のために、地区のコミュニティーセンターと連携した団体貸出は、高齢者などにとって有効な方法であると思いますので、ぜひ継続してください。また、小・中学校でのブックトークや手作り絵本教室などは、本に興味を持ち、読書推進を進めるよい機会となると思うので、今後も工夫改善しながら進めていただきたいと思います。

#### (1 2) 文化財一般保護事業

市内の文化財や自然の保護によく努められておられると思います。また、文化財の周知・活用等のため、郷土室企画展を実施されておりますが、このような企画を引き続き実施、充実させていってほしいと思います。

熊野古道参詣道の保全修復については、市単独では、なかなか難しい部分もあるかと思えます。県をはじめ環境保全指導員、各峠の保存会、語り部の会等と連携、協力しながら、今後訪れる人たちが、安全、安心で気持ちよく古道散策ができるような取組を進めていただくようお願いいたします。

#### (1 3) 郷土室保存運営事業

県及び市指定の文化財である文書等を維持保存するための処理や、文書資料の調査等に取り組んでいただいております。令和3年度は「紀伊続風土記」に関する調査の中で、郷土史研究にも活用が可能な学術的成果も得られたと聞いております。こうした活動は、地味でなかなか目立ちませんが、更に継続していただきたいと思います。また、調査研究の成果を市民に分かりやすく展示したり、講演会等において広く紹介するなどの活動も継続していただきたいと思いますし、公民館等の講座で、郷土史などとして扱っていただくのもよいのではないのでしょうか。

#### (1 4) 少年センター事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、夜間巡回などの非行防止活動が中止となりました。そのような中、担当の方が、自転車による巡回で登校中の児童生徒にこまめに声掛けをし、安全をうながしておられる姿を拝見しました。登下校の安心・安全を考えると、とても心強く感じる姿だと思いました。

また、青パト（青色回転灯装備車）による巡回など、市民会議や各町民会議と連携した取組が行われました。一斉パトロールなど、実施したいが単独

では難しいと思われる事業については、今後も関係機関と連携した取組で、子どもたちの安全、健全育成に努めていただきたいと思います。

#### (15) 文化会館管理事業

オープンから30年を迎えようという尾鷲市民文化会館です。今までにも尾鷲節コンクールを始め、講演会、演劇、コンサート、映画会など様々なイベントを開催してきました。都会から離れた尾鷲だからこそ、その存在意義は大きいと思います。

施設の維持・管理には多額の費用がかかり、ご苦労されると思いますが、文化会館の存在意義を考え、今後とも効率的、計画的に会館の維持・管理を進めていってください。

#### (16) スポーツ振興事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により大会の中止も多くありました。しかしながら、各スポーツ団体においては、感染防止対策を徹底した練習や大会開催に努力されていると聞きます。この事業は、幅広い年齢層の方にスポーツ活動の場を提供し、生涯スポーツを推進するというスポーツ振興事業かと思しますので、このように努力をされている団体や、スポーツ人口の拡大、健康増進のためにも、ぜひ継続していただきたい事業かと思えます。

また、他市町公営プールの利用助成金についても、併せて継続をしていただきたいと思います。

#### (17) 三重とこわか国体活動費

オープンウィータースイミングの国体のリハーサル大会を無観客で実施できましたが、本大会は中止となりました。大会は中止となりましたが、デモンストレーションスポーツであるクッブ・ユニカール・ウォーキングの3つの競技は、開催こそありませんでしたが、審判講習会の実施などで、その普及振興を図れました。今後のニュースポーツ団体を中心とした活動に期待し、これらの競技が地域に広がっていくことに期待したいと思います。

## 【湯浅委員の評価】

### (1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

九鬼・輪内地区の学校が賀田小学校・輪内中学校に集約される中、大きな役目を果たしているのがスクールバス運行管理事業です。車内で英語の音楽に触れる、防災教育を実施するなどの工夫もあります。九鬼・輪内地区でスクールバスが順調に運行されていることを知らない市民が多いのではないかと、思います。相応の費用もかけていますので、市広報誌やSNSで一度紹介していただく価値があります。

### (2) 魅力ある学校づくり推進事業

現在はALTが在籍し、彼らとの交流を通じて言葉だけでなく、私たちに少し違うユーモアのセンスなどがわかれば、学校（学ぶこと）がもっと楽しくなるでしょう。また、会話だけでなく、社会の中では最も重要な情報は英語で流れていることが多いので、英語に親しむ機会を多く持ち、将来は試行錯誤しながら「調べる」作業があることにも気づいてほしいものです。

三重大学との共同研究は大きな成果でした。手法の継続と他校での活用が喫緊の課題です。

### (3) 奨学金貸付事業

自治体奨学金事業の活用は低調という報道がありました。最近目にしたのは、職種を限定せず地元へUターンした人には半額を免除する、という例です。奨学金は経済的に就学困難な生徒・学生に貸与されていますが、中には費用のかかる、医療福祉系国家資格を目指している学生向けの制度がある自治体もあります。また、若者を地元へ呼び込むIターン返済免除制度もあるので、一度検討されてはいかがでしょうか。令和3年度の事業では地元新聞紙等へ何度もお知らせを流し、制度の周知に尽力されてきました。

### (4) ふるさと教育支援事業

最近、「工業社会の学力は、ふるさとを捨てる学力」だった、という反省が生まれています。これからの「脱工業社会の学力」は、ふるさとをつくり支える学力」になっていく流れに移行していく、と考えられます。

幼少期から尾鷲の自然や文化に触れることによって、尾鷲を好きになり、「おわせ人」が育ちます。しっかり自分たちを育ててくれた舞台を認識できるのは、地方の子どもたちの特権で、都会の子には地元という認識はありません。これからの流れとして、更に広くふるさとの良さを体験する流れになっていってほしい事業です。



(5) 子どもの学びと育ち育成支援事業

少子高齢化を悲観するのではなく、やがてやってくる人生100年社会へ舵を切る時代になってきました。2007年生まれの中学生（15歳）の予測平均寿命は107歳とされています。実業界では、計画・実行・評価・改善の「PDCAサイクル」が、変化の早い現代では対応しきれなくなっており、サイクルの短い「発展的AAR環境」（見通し—行動—振り返り）に変わりつつあります。注目しておきたい視点です。

Q-U調査結果は教員全体で共有し、生かし切ることが重要です。

(6) 地域人材を活かした子育てHAPPY事業

市の構成人口高齢化は45%になりつつあります。今までの経験を生かした人材の活用がテーマになります。社会参加する高齢者は健康比率が上がり、死亡率が下がっているという統計発表がありました。地域人材=高齢者とは限りませんが、現役時代から自らの力を子育てに生かせることができれば、自身にも社会にも効果があると考えられます。

子育て支援団体や関係各課の連携により、毎年イベントが開かれているのは好ましいことです。保護者の輪も大きくなり、楽しみも増えている事業です。

(7) 成人式事業

令和3年度はコロナ禍の関係で、年度内に成人式が2回ありました。生涯学習課最大規模のイベントが、複数回無事終わりました。準備も大変だったと思いますが、学びもあったことでしょう。1月の会場では記念写真の背景として風船アーチが用意され、利用者も多く、今後の舞台作りのヒントになりました。いつも、新成人の姿を見ていると、人生最良の日の一つだと実感します。既に選挙権もあり、名実ともに充実した成人式でした。また、第64回は最後の成人式になり、来年度からは「尾鷲市二十歳の集い」になります。

(8) 放課後子ども教室推進事業

文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童クラブ」には、主旨や実施形態に違いはあるものの、それらに対応した時代に即した事業です。尾鷲では地域資源を活用した事業が進められており、普段は体験できないことができ、また地元を知るよい経験になりました。両省が求める平日開催日数はハードルが高く、徐々に向上していけばよいのではないか、と考えます。

## (9) 公民館事業

「公民館」でネット検索すると尾鷲の公民館写真が出てくることは、よく知られた事実ですが、なにより街の中心部にあり市民が足を運びやすい施設なので、時代に対応した事業を更に進めてほしいと思います。

ここ2年間はコロナ禍で入館者は減り、また、人口減少の影響もあって利用者が減っています。開館後40年を超えており、公民館・図書館・郷土資料室の総入館者は相当な数になっているはずですが、自信にもつながりますので、一度集計してみてもはいかがでしょうか。

## (10) 天文科学館管理運営事業

建設の根拠になった30年前のふるさと創生事業について、現在も活用している事業は全国でも少ないのではないかと、という指摘がありました。プラネタリウム、宿泊施設や食堂のない小規模施設なので、無理をせず、コンパクトな天文科学館運営を目指してきた訳ですが、ここにきて更なるチャレンジに挑んでもらいたいものです。学校との連携を大切にしつつ、夜間観望会をいかに盛り上げるか、更なる向上を期待します。

## (11) 図書館管理運営事業

順調に伸びていた入館者数はコロナ禍の令和2年度から減りました。しかし、団体貸出や一回当たり貸し冊数比率が増加しており、運営努力が功を奏したと認められます。確実な「固定客」が形成されており、この方向で進むようお願いいたします。視覚に訴える市ホームページや色彩の美しい「つみくさ」の親しみやすさ、今後も期待しています。「つみくさ」の「これ読んでみまー！」や特集図書には分かりやすい書評があり、好感が持てます。本を探している、「探しているのは何ですか」と声をかけてくれるのも、うれしい対応です。

## (12) 文化財一般保護事業

熊野古道世界遺産登録から17年。最長の伊勢路は和歌山県側に比べ、外国からの旅行者が少ないという指摘がありました。コロナ禍が終了すれば、外国人客が徐々に増加することが予想されますので、準備をしておきたい時期です。

市のホームページで文化財が詳しく紹介されているのは貴重ですが、5年前のデータなので、見直し時期が来ているように思います。また、須賀利・大池小池が天然記念物に指定されてから10年経ちました。これもデータを活用される人のため、更新が必要です。

### (13) 郷土室保存運営事業

未整理収蔵品の整理と資料カード化や新聞記事の収集・タイトルの目録化が進められています。企画展も年の半分は開かれました。展示によって東紀州の歴史を知る上で大切な「紀伊続風土記」が身近なものになりました。

どこに資料があるか知る上で、資料カードの電算化が必要になってきます。長期計画として更に進めてほしい事業です。

### (14) 少年センター事業

コロナ禍によりヤーヤ祭り・おわせ港まつり等が中止になり、補導件数が減っています。一方で、近年の傾向として、不審者情報が増加しています。これは、最近では学校の指導もあり、対象者をきちんと見て申告するようになった成果もあると思われます。「一つの重大事故の裏には29の軽微な事故と300件の怪我に至らない事故がある」（ハインリッヒの法則）と言われています。これからも注意しておく必要があります。

令和3年度は青パト（青色回転灯装備車）による巡回、早朝パトロール、登下校時の見守りなど582回を実施されており、少年センターの巡視予防効果が大きいと思われる。

### (15) 文化会館管理事業

尾鷲市民文化会館は平成元年に出版された「おわせ黒潮会議からの提言書」にも記載されており、これからこの街に住んでいく若者たちの夢を乗せて建設されました。松阪以南では最大の文化会館で、ここでしかできない事業もたくさんあります。また、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種会場としても活用されました。

建設後四半世紀を経てもう一度初心にかえり、市民に訴える活動を実施すると共に、会館発の文化の新芽を育ててほしいものです。

### (16) スポーツ振興事業

令和3年3月に、スポーツ推進計画の見直しがありました。今後5年間で構成人口高齢化は45%を超えるものと思われるが、その後は微減傾向とされています。計画当初にうたわれているように、活力を生む生涯スポーツを実現するために、子どもにはお金をかけ、高齢者にはもっと声をかけたいものです。基本施策にもあり、人口の半分近くを占める高齢者が無理なく続けられ、国体のデモンストレーション競技にもなっていたウォーキングをもっと前面に出してもよいのではないかと思います。

「ココロとカラダの健康増進ウォーキングマップ」（20部）は力作で、このまま埋もれてしまうのはもったいないと思われます。費用もかかりますが、ぜひ復刻して再活用するなど、市の姿勢を示してほしいものです。

#### (17) 三重とわか国体活動費

2020年の鹿児島国体が中止になり、残念なことに三重とわか国体も中止になりました。市民にとって期待の高かったオープンウィータースイミング（OWS）が開催できなくなりました。しかし、準備をする中で、三木里海岸を舞台にするOWSがいかに恵まれたものであるか理解することができました。調査・準備に使われた費用は、今後の開催に役立つと思われ、無駄ではなかったと考えます。競技は危険も伴うため単独で実現できるものではありませんが、今回の経験が風化しないうちに、継続して開催していただきたいものです。

ネット検索すると、熊野古道が通る尾鷲は、ウォーキングのメッカとして度々登場します。よりスポーツ性の高い山歩き（トレッキング）コースも整備されつつあり、「ウォーキングの街」を看板にして進めていけそうです。

## V 教育委員による評価

### 【教育委員の評価】

#### (1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

新型コロナウイルス感染症予防対策として、マスクの着用、消毒、換気、会話など、学校やドライバーによる指導を徹底し、バス内での感染等もなく、安全・安心な通学手段を確保することができました。また、ドライバーが子どもたちの快適な乗車環境を考え、英語の音楽や子どもたちのリクエスト曲を流すなど、子どもたちの気持ちを大切に、快適で安全な運行を心がけている点も評価できます。コロナ禍のため、地域の伝統行事や校外学習等における移動手段としての利用は大幅に減少しましたが、通学以外の利用として住民との交流を通じ、社会生活、郷土愛等を育む教育環境の充実を図るためにも大いに活用してほしいと思います。

スクールバスにおける災害対応（避難訓練）も2回実施されており、今後も様々な場面を想定した訓練を継続しながら、実施後の反省点や改善点などを明らかにし、的確な対応ができるようにしていただきたいと思います。

#### (2) 魅力ある学校づくり推進事業

令和元年度から、賀田小学校・輪内中学校と三重大学との共同研究としてスタートさせた2ヵ年事業でしたが、新型コロナウイルス感染予防のために十分な活動ができず、1年延長して令和3年度で終了となりました。

3年の間に小中9年間を見通した英語カリキュラムの完成や、英会話体操の継続的实施、賀田小学校では「スイッチオン」を活用し、楽しみながらきれいな発音ができたり、台湾の小学校とオンラインで交流し、「英語が通じた」という実感を持たせるなど成果が感じられ、子どもたちが進んで英語で会話をしようとする姿が見られるなど効果を上げました。輪内中学校では、1ページで地域を英語で紹介する「ワン・ペーパー」などに取り組み、発表会を行うなど大きな成果を上げることができました。

本事業は、令和3年度で終了しましたが、この3年間で得た成果を生かし、9年間を通じた英語教育は今後も地域の特色として続けていただき、小中一貫した英語教育が推進されるよう期待します。

#### (3) 奨学金貸付事業

奨学金貸付事業については、ここ1、2年応募者が少なく、成績要件の削除や一括貸与・分割貸与の選択制、また、新型コロナウイルス感染対策による経済的不安を想定した追加募集のための収入限度額の引き上げなど改正を重ねてきましたが、応募者の増加につながっていないことが残念に思われます。ただ、年度内に追加募集を実施したところ、1名を追加採用

できたことについては評価できます。

所得制限の撤廃など、更に改善する余地があるかどうかを検討し、丁寧な周知、広報活動、学校への働きかけを行い、併せて本市奨学金の特色である返還免除制度のアピールもしっかりしていく必要があると思います。

#### (4) ふるさと教育支援事業

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの地域学習が縮小・中止となり、残念な年でした。自分の生まれ育ったふるさとの「人」「もの」「こと」に関わって学び、理解し、継承していこうとする大切な取組であり、「おわせ人」作りに必要なため、継続させたい事業です。

中学校職場体験については、地域産業、特に本市の基幹産業である漁業、林業などとの関わりや、地域おこし協力隊の方々をゲストティーチャーとして迎え、キャリア教育全体の中で位置づけた学校もあり、今後も種々の体験を通して、地域と自分との関わりを考え、発信できるような事業になればいいと思います。また、特別非常勤講師（教員免許を持たない人を時間単位で限定して採用する制度）がなくなったので、協力していただいた地域の方々への謝礼（報償費）の予算化も必要ではないかと考えます。

#### (5) 子どもの学びと育ち育成支援事業

全国的に不登校児童生徒が増加傾向にあると言われている中、Q-U調査は、一人ひとりの子どもの学級での満足度や学校、家庭での生活意欲、また、学級集団の状況を把握することができる優れたものです。この結果を全ての教員が共有するとともに、学力学習状況調査結果、本市のアンケート調査結果などを丁寧に分析し、個々に応じた指導を進め、学級満足度、一人ひとりの生活意欲を高めていっていただきたいと思います。また、学校生活に不安を抱えていると、本来の学習面に支障が出るので、教員も子どもも一人で抱え込まずに協力できる体制作りも強化していく必要があります。

幼稚園における情操教育の一環としてのプロによる人形劇などは、本物に触れる貴重な機会です。尾鷲幼稚園としては残された期間も他園との合同開催を増やすなどして、本物の芸術に触れる機会を増やしてほしいと思います。

#### (6) 地域人材を活かした子育てHAPPY事業

地域人材の協力を得て、子育て世代が親子で参加できる事業であり、その取組により、子育てしやすいまちのイメージアップにつながることを期待されます。内容は、多くの団体の協力により多彩なものになっていて、大人も子どもも楽しめ、学べる価値あるものになっています。青空図書館は、子どもたちが本に興味・関心を持つようによく工夫されており、HA

P P Yワークでのお仕事体験でも、子どもたちは興味を持って参加していたので、今後もぜひ継続していただきたいと思います。

昨年度同様コロナ禍で規模の縮小や中止もあり、運営側にとっても大変な年だったと思います。この事業は地元企業やボランティアの協力無しには成り立ちません。地域が一体となり子育てを楽しみ、みんなで見守るという意識につながっていきます。1人でも多くの子育て世代の家族が参加できるよう、事前PRも更に拡大していただき、1人でも多くの市民に楽しんでもらいたいと思います。

#### (7) 成人式事業

新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた令和2年度の成人式を11月に実施することができ、また、令和3年度の成人式も予定通り1月に無事実施することができて、よかったと思います。年度内に2回の成人式の実施は、運営側も参加者も本当に大変だったと思いますが、大きな問題もなく実施できたことは高く評価できますし、参加者の心にも残ったのではないかと思います。

新成人による実行委員会を結成し、式の準備を進めていく事により、新成人としての自覚も芽生えていくことと思います。ただ、実行委員会のメンバーだけの成人式とならないよう、新成人全員が主役となれるよう、実行委員会との連携を一層密にして、今後も取り組んでいただきたいと思います。

#### (8) 放課後子ども教室推進事業

在籍学校や年齢の違う子どもたちが参加し、地域の方々の協力を得て多彩な体験や創作活動を行っていく取組は、自分とほかの人とのつながりを広げ、学ぶものが大きいと考えられます。放課後の子どもたちの居場所作りとして大きな支援ができており、貴重な地域交流・世代間交流の場になっています。

講座メニューについても常に新しいものが考案され、関係者の努力のたまものだと思います。講座の内容や、ボランティアの確保にも苦労があると思いますが、引き続き子どもたちのために継続してほしい事業です。

#### (9) 公民館事業

市民の学習機会を提供する場として、講座、サークル、自主サークルなど、活発に実施されており、市民のニーズに応えた新たな定期講座や短期講座なども開設され、地域住民の交流においてとても重要な役割を果たしています。地域のコミュニティーセンターでの講座についても、中央公民館と連携を図り1人でも多くの市民が利用できる講座にしてほしいと思います。また、講座等の成果発表の場である「市民文化展」が新型コロナウ

ウイルス感染予防のために中止となりましたが、ロビー展が開催できたことは、講座生にとって更なる意欲の向上につながるものと評価できます。

人生100年時代を健康で幸せに過ごせるまちづくりのためには、公民館は欠かせない存在です。生涯にわたって学習し続ける習慣を持てるような講座作りを心がけていただきたいと思います。

#### (10) 天文科学館管理運営事業

美しい星空が見える尾鷲の特色を生かした夜間展望会等を実施し、SNSや市ホームページからの情報発信に努められており、これからもますます発展していく事を期待します。令和3年度もコロナウイルス予防対策のための制限をしながらの開館で、来館者数の減少はやむを得ないところもあると思います。しかし、学校への出前授業やイベント参加者数などは例年とほぼ変わらず、昼間に実施されている講座は希望者も多いと思われるので、多彩な内容と講師の発掘に努力いただき、また、ギリシア神話と星座の話など、文化面についての事業も検討してほしいと思います。

天文科学館も老朽化が進み、故障箇所が多く出てきていますが、職員による定期的な点検と計画的な修繕をしていく必要があると思います。

#### (11) 図書館管理運営事業

図書館では、子育て世代をターゲットにして本に触れ合い、親しむ機会を作り、たくさんの参加者を集めている取組は高く評価できます。また、子ども読書会やいきいき尾鷲っ子との連携事業、子育てHAPPYDAYでの青空図書館など、子どもが参加しやすい多彩な事業で読書の普及活動を工夫して実施している点もよかったと思います。

読書の習慣を付けさせるため、幼稚園・保育園・学校・コミュニティーセンター等での巡回図書、読み聞かせ等を行っていることは大いに評価できます。毎週土曜日には幼児を対象とした読み聞かせ等も行い、小さいうちから本に興味を持ってもらうための努力もしています。昼休みや放課後等に読み聞かせの実施回数増も検討し、子どもたちの支援につなげてほしいと思います。

小中学生の読書時間が少なくなっている今、子どもたちが興味や関心をもって図書館に通うようになるような取組を一層進めていただきたいと思います。

#### (12) 文化財一般保護事業

文化財調査委員や環境保全指導員により文化財パトロールや定期点検が行われ、整備されています。最近、八鬼山荒神堂の改修や尾鷲藪漕隊の活動なども注目されており、本市の文化財にも光が当たりつつあるのでは



ないかと感じています。文化財の保護・管理に努めるためには、子どもの頃から興味を持つことも必要であり、学校での地域学習や、いきいきおわせっ子等にも取り入れてほしいと思います。また、2年後の熊野古道世界遺産登録20周年に向け、何ができるかの検討を始めてほしいと思います。

全国的にも貴重な文化遺産である須賀利大池・小池については、管理に時間と労力が必要ですが、貴重な文化遺産であるため継続して維持管理に努めてほしいと思います。

### (13) 郷土室保存運営事業

郷土室が所蔵する貴重な史料の調査により新しい発見があったことから、その企画展示や市民学習会を開催したことはたいへん有意義なことであり、高く評価できます。地域の歴史愛好家はもちろんのこと、一般の市民の方々においても自分のまちの身近な歴史に触れ、当時の人々の生きざまを感じ取ることができるのではないかと思いますので、今後も更に研究を深め、その成果を公開していただきたいと思います。

ただ、市民にはまだまだ知られていない部分が多いため、古文書についてのわかりやすい説明など、1回でも多く企画展示等を実施し、市民にも郷土文化についての重要性をもっと知っていただき、興味を持っていただきたいと思います。

### (14) 少年センター事業

おわせ港まつりや祭礼などが新型コロナウイルス感染症対策により中止となり、それらに伴い特別補導や合同補導が中止となりましたが、安心・安全な登下校を見守る地道な取組は評価できます。毎月定例の補導活動や「子ども110番の家」訪問、地域間交流事業、環境浄化活動等は実施でき、本市の青少年健全育成によく貢献されており、本市においては大きな問題等は見当たらないと思います。時代の流れとともに、夜間外に出ての遊びは減少し、自宅に居ながら友達同士でのゲームが主流となってきています。家庭との連携も図り、青少年の健全な育成に努めてほしいと思います。

ただ、少年指導員の会、青少年育成市民会議など関係団体では年々活動できる方が少なくなってきており、後に続いてくれる方々の育成が望まれます。

### (15) 文化会館管理事業

前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、自主事業については、座席数を制限し、予定を前倒ししてロードショーを実施したり、年度の後半には、パフォーマンスショーや著名人の講演会などを開催することができたこと、また、ロビー展や大ホール開放イベントなどの

実施など、コロナ禍にあっても事業の実施に努力されていると思います。

本来は、コンサートや映画鑑賞会など、市民の憩いの場であり、気軽に足を運んで文化活動を行える場でもあります。引き続き、感染防止に努め、優れた文化芸術に触れる機会を増やすためにも、市民のニーズに応えた満足のある企画・運営に期待したいと思います。

#### (16) スポーツ振興事業

一定時間運動し、体を動かすことは心身の健康の維持増進につながるため、年齢に関係なく誰もがスポーツ活動ができる場を設けていることは評価できます。前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響で体育施設利用者の数は減少していますが、予防対策を講じながらスポーツ活動に参加している市民の姿も多く見られました。一方で、三重県市町対抗駅伝大会については、チームを編成し、練習する段階で中止となってしまい、大変残念でした。

子どもの数の減少によりスポーツ少年団へ加入する子どもが減り、団員集めに苦勞している少年団もあります。低年齢からの入団も検討してはどうでしょうか。また、中学校の部活動の外部指導者も含めたリーダーや指導者の発掘や育成が今後重要な課題となってくると思います。

他市町公営プールの利用助成金は、市民にとってありがたい制度です。一部の市民だけでなく、一人でも多くの市民が活用できるようさらなるPR活動に努めてほしいと思います。

#### (17) 三重とこわか国体活動費

令和2年度に開催予定だった三重とこわか国体が令和3年度に延期となり、オープンウォータースイミング（OWS）のリハーサル大会が無観客で実施されました。大会は成功裡に終えることができたものの、国体そのものが中止となってしまいました。担当された方々には、準備の段階で様々な苦勞があったことが想像され、市あげての一大イベントただけに非常に残念だったと思います。しかし、このような全国レベルの大会の実施に向けた取組は、今後の参考になると思いますし、三木里でのOWS大会が継続されることも期待できると思います。また、デモンストレーションスポーツ競技であるウォーキング・クップ・ユニカールは、子どもから高齢者まで参加できる競技なので、今後もOWSと併せて普及・振興活動を継続してほしいと思います。

## VI おわりに

尾鷲市教育委員会では、令和3年度は「尾鷲市教育ビジョン」の具現化第3期として、また、後期計画の4年目として事業を実施しました。事業の点検・評価にあたり、各委員からは貴重なご意見等をいただきました。

総評としては、概ね良好に行われているとの評価でしたが、事業の問題点や改善点のご指摘、ご提案もございました。

今後、この課題の検討を進め、改善や工夫に取り組み、「共創・共育・共感～次代を創る“おわせ人”づくり～」にふさわしい教育行政の推進を図ってまいります。